

淫獄の バニシング・ナイト

狙われた正統後継者姉妹

立ち読み版

小説 大熊狸喜
挿絵 はる明日

プロローグ	聖輝琉拳 正統後継者の姉妹	006
第一章	毘に墮とされた格闘姉妹	019
第二章	宿敵による身体検査	060
第三章	愛羅 処女剥奪	103
第四章	星羅 純潔散華	145
第五章	奪われてゆく始祖の血統	188
エピローグ	血	242

登場人物紹介

Characters



ひじりあい ら

聖愛羅

一子相伝「聖輝琉拳」の後継者候補。生真面目で優しい性格から学園でも人気者。拳から破壊の気を流す天才。

ひじりせい ら

聖星羅

愛羅の妹でもう一人の後継者候補。明るくて正義感の強いボーイッシュな少女。蹴りから破壊の気を流す天才。

かいどうぞう た ろう

海道蔵太郎

裏社会で勢力を広げる格闘技「霸王蛇活拳」の現正統後継者。聖輝琉拳の滅亡を狙っている野心家。

かいどう に じゅうろう

海道二十郎

蔵太郎の弟で「霸王蛇活拳 裏流儀」の後継者。主に謀略を担当する知性派。

かいどう に じゅう た

海道二十太

二十郎の双子の弟。同じく裏流儀の後継者。軽い性格で非常に好戦的。

き締め、閉じられた割れ目がピクンとわななく。

少しだけ露出させられた粘膜も更に艶めき、襞間から会陰へと、透明な蜜を溢れさせ始めていた。

『肛門には凶器を隠してなかったようです。では皆様お待ちかね、いよいよ我らの宿敵、聖輝琉拳伝承者姉妹の、処女おマンコを大公開です!』

「——っ!」

二十朗の司会に、姉妹の背筋がゾクッと冷やされる。同時に、心臓は更なる恥辱の予感で、ドクドクと鼓動を高められてしまう。

「いっ——いやですふううっ!」

全身に焦燥の恥汗が流れて、逃れようと必死に裸身をよじらせる。

背後から鷺掴みにされた裸尻が、更にムチッと広げられて、柔らかい閉じ目が、左右から男の指を当てられる。

「! い、いやはっ——っ!」

「お前たちのマンコがどのような姿なのか、男たちに見て貰うがよい」

抵抗の言葉を笑われると、左右から開かれてしまう。

——むにり…。

「ついひやあああああああああつ!」

「ひやめろおおおおおおおおおつ！」

宿敵の手によって、聖姉妹の処女粘膜が晒されてしまった。

会場中の牡たちが「どおおおおつ！」と劣情を沸騰させる。

左右に広げられた二人の女性器は、処女特有な優しい桃色で色付いていた。

「ひ、ひとびとのっ——しせんがはっ——っ！」

愛羅の秘処は、割れ目の上端に位置するクリトリスが、小さく息づいて包皮から半身を覗かせている。陰核から続く襞は極薄くて形が美しく揃い、内粘膜を囲んでいた。

粘膜全体は小さなシワを刻んでいて、柔らかさを確信させる。小さな尿口はプクンと膨らみ、割れ目の下端では小さく口を開ける、穢れ無き膣孔が見えた。

処女の蜜を纏っているその恥孔は、初めて晒される羞恥に震えていて、牡たちの支配欲を存分にかき立ててしまう。

「みっ——みるなっ——よおおおつ！」

星羅の割れ目内部は、外見と同じく幼さが色濃く残る、小さな創りだ。

肉芽は半身以上に包皮に隠し、自らの蜜に濡れながら牡たちの視線に震えている。左右に続く極薄い花弁も、小さくて形が整った美しさ。

粘膜は浅いシワを数多く浮かべて、女性の身体で最も柔らかい箇所だと、見ているモノに理解させていた。

小さな尿口は針で突いたように僅かに膨らみ、ピクつと震える。すぐ下で息づく処女の膣孔は、自らの恥蜜で艶を魅せて、いまだ未経験の綺麗な桃色を強めてもいた。

幼い外見と小さな女性器は、牡特有の性的な独占欲を、強烈に湧き起こさせてゆく。肉芽や壁や尿口や膣孔に、牡たちの視線が容赦無く突き刺さっていた。

「見いっ——みないでへっ——くださひいっ！」

——ドクンドクンドクンドクンっ！

牡の視線に、意識は汚らわしさでの拒絶しか感じられない。なのに女の肉体は、視線からさえ感じさせられる異性の熱欲望で、トクトクと性感を一方的に高められてしまう。

秘処も肉体も、男たちの視線から隠したい。

なのに、意識に反して手足の力は更に脱力をして、仇の指に抵抗も出来ずに、逆に自ら愛撫を求めるかのように、震えながら新たな蜜を溢れさせてゆく。

「ほう、見せ付けて濡らしてるのか？ コイツはとんだ淫乱だな。ククク」

「はあああっ——だれ、がっ——いやあああああああっ！」

挑発に抵抗したと同時に、今度は処女の膣孔が、ムチュ：と左右に広げられてしまう。

「つやだあああっ——ひろげるなはあああっ！」

開かれた姉妹の処女膣孔が、またカメラ群に照らされて、大寫しに晒された。

濃い桃色に色付いた膣壁は、ライトに照らされて浅い処ちよで小さく閉じる、処女膜まで拡

大接写されてしまう。

更に、仇の指で処女膜の小さな穴を、ツンと突かれる。

それだけで、純潔を穢されてしまう強い恐怖と危機感で、理性が焦燥させられてゆく。

清純の証まで晒されてしまうと、愛羅は無意識に、蔵太郎ではなくカメラに向かって、哀願をしてしまっていた。

「ついやあつ——やめてっ、くださひいいっ！」

「見、ないれよおおっ——つくひよおおっ！」

恥ずかし過ぎて、理性ではなく本能で許しを請う。聖輝琉拳、実質継承者の姉妹。

高潔な自尊心の柱はもう、根元から倒壊させられる寸前にまで、追い詰められてしまっていた。

『流石は聖輝琉拳の姉妹。処女膜まで調べた結果、おマンコの中にも凶器など隠してませんでした！』

二十郎の言葉に、心がヘシ折られて、強い理性は逃げ道だけを求めさせられてしまう。

肉体の全てを余すところなく晒されて、意識も自尊心も追い詰められた格闘姉妹は、二十太の言葉で更に、恥辱の底へと追い詰められてゆく。

「ついでだあ。お前ら姉妹がいくところ、見せてやろうぜえっ！ ゲッヘヘヘッ！」

「なっ——つやめへっ——やだあああああつ！」

驚愕させられた姉妹の前に、蔵太郎と二十太がそれぞれ立つ。

全裸開脚のまま父の仇と対峙させられると、兄弟の指で左右から、恥所を愛撫責めにされた。

「男たちとカメラの前で、イかせてやるぞ」

——ツんツぷチゅッ、ぬチリヌチリチゅ、つぷつぷツぷユッ！

仇の小指で菊肛を突かれて、薬指で会陰をスリスリと撫でられる。小さな膣孔にも、中指を極浅く抽送されて愛撫をされる。

——トントントンチゅッ、ヌリユぬりゅツるちユぷルゅッ！

尿口もリズミカルに、人差し指で連打をされる。過敏な肉芽は親指で包皮を捲られて、同じタイミングで優しく愛撫に晒された。

「っひはあああああああつ——やめてくださつ——あはううつ——そんなところほつ——なでるのわつ——いやですふうううううああああああああつ！」

理性では嫌悪しか感じられないのに、肉体は男の愛撫に対する抵抗感を、秒単位で奪われてゆく。

後孔を指突きされると、キュウ……と締まって下腹部の内部が熱を上げる。会陰を撫でられると、くすぐったさの奥でトロける様な深い脱力感を、腰全体へと広げられてしまう。

「ひやめろほおつ——っあはあうつ——あソコつ、ツンツンんつ——はひいいつ——ツン

ツンっ、ツプツプするにやはあああああつ！」

膣孔を浅く指抽送されると、まるでこのまま強姦挿入をされてしまうような、強い危機感で理性が困惑させられてゆく。

なのに子宮は、女に慣れた男の指に対して一方的に馴らされてゆき、処女孔で拙くも吸い付いて、新たな蜜を溢れさせてしまう。

膣孔愛撫を粘膜の感覚で意識させられてしまうと、処女の子宮が女の本能に目覚めさせられてゆく。理性では仇の指だと知りながら、肉体は男性の愛撫に歓喜をし始めていた。

尿口を連打される度に柔らかな振動が与えられて、女性器から子宮へと、性感の波となつて流し込まれてしまう。

跳ね上がる鼓動と一緒に子宮をリズムと熱で責められると、意識がトロけて理性的な抵抗感さえもが、封じられてゆく。濡れた肉芽は更に蜜を纏わされて、包皮を剥かれた完全露出で根元までも、優しい指愛撫で躰けられてしまう。

下半身全体が、仇の指でトロけさせられて性感責めに晒されて、子宮は更なる愛撫を求めさせられてゆく。女性器全体と子宮から強い飢餓感と性感が沸き上がり、背筋をゾンゾンと連続で貫かれ続ける。

強すぎる性熱と、初めて晒される異性の愛撫。

父の仇という恥辱だけしかない筈なのに、処女の肉体は、知らない飢餓感と性感を脳裏

にまで灼き付けられてゆくのが、止められなかった。

「いひやはっ——もふツンツンっ——やめへくらさひいいいい——このままれわはっ——わたくひいいいっ！」

心臓の鼓動が限界まで高められて、子宮の飢餓感が暴走させられてゆく。肉体の力は完全に抜かれて、更に男の指に飼い慣らされて、自ら、より開脚させられてしまう。

強すぎる羞恥で理性が追い詰められてしまい、もう抵抗の言葉が精一杯だ。

「いやらはっ——このままにやはっ——くふううああああああああああつ！」

子宮からの飢餓欲求で、意識までもがどうしようもなく、肉欲で埋められてしまう。

手足の熱が子宮へと集められて、全ての音が遠退いてゆく。早く頂点が欲しいと、愛撫する指に自ら、拙く拙く吸い付いていた。

「もういきそうだなあ！ カメラの前でいき晒せよおっ、ゲッハハハッ！」

「カはっ——カメラっ、カメラいやですふううううっ！」

二十太の言葉で、愛羅もカメラで映される恥辱を強く意識させられてしまうと、耐えられなくなつて無意識に美顔を逸らしてしまう。

そんな少女たちは、男たちの嫌らしいアイディアで、更なる恥辱へと追い詰められる。

「なら丁度いい。お前たちはカメラか男、どちらかと視線を交わらせなければ、いけない身体にしてやろう」

「つ——ついやですふつ——あああああああつ！」

言われたと同時に、姉妹はこめかみと首のツボに、強い気を流される。その途端、女体は宿敵と視線を交わらせて、逸らす事が出来なくされた。

同時に、公開絶頂へ向かつて指愛撫が強められる。

「めつ——めがはつ、そらせないひいひいひいひいあああああつ！」

——つツんツぷツ、又ち又ちユぬちゆツ、トとトとトとトツ、又りユぬりゆるちゆつプ
りユちゆツ！

後孔と会陰の指責めが速くされて、膣孔への浅い指抽送と尿口ノックも強くされて、クリトリス愛撫が僅かに力を帯びる。

「ついであつ！　イク時にはイクつて、勝手に白状する口にしてやるぜえつ！」
更に新たな、命令の気が流されてゆく。

「ひやつ——いやはあああああつ——そこクリクリひつ——ツンツンつ、いやれふうううつ——おなかが熱ひいっ——あ熱くてつ——いやれふううううううつ！」

子宮の飢餓感が更に熱膨張をさせられて、下半身の力が完全に奪われてしまう。恥辱と焦燥感で追詰められた理性は、ただ幼子のように許しを請うしか出来なくされる。

逸らす事の叶わない視線は、絶頂へと追い詰められてゆく自分の心の、屈辱と羞恥と怒りと絶望の全てが見透かされて、強い敗北感までもが沸き上がらされてゆく。

性感の高みへと上げられてゆく自らの肉体を、もう止める事なんて、絶対に出来ない。仇の愛撫で絶頂へと向かう、女の肉体。姉妹は自分たちの存在そのものに、自尊心の柱を押し倒されていった。

「やめへっ——くらさひいいいいあああああ——わたくひいっ——いひいっ——いきっ——いきひいいいっ！」

いくなんて言いたくないと、押しつぶされてゆく理性が弱々しく抵抗。周囲の音が消えて、限界の鼓動と愛撫される蜜の音だけが、全てにされる。

菊肛と会陰と膣孔と尿口と肉芽と子宮が、強すぎる飢餓感で暴走させられて、理性が灼き墮とされてゆく。体内から背筋、心臓から脳裏までもが、強烈な性感絶頂へと、どうしようもなく上げられていった。

もう考える事も出来ない。抵抗なんて、絶対に無理。

肉の欲求に追い詰められた無意識が、そんな敗北を悟ると、姉妹はどうとう父の仇によつて、初めての異性絶頂を、カメラの前で視線を交えながら晒されてしまう。

仇たちがニヤリと笑つて、二人の恥所を強く指突き。

「イかせてやるぞ。そうら！」

——つつちゅつつ！

「っ——っ！」



しい刺激をされてしまっていた。

「おやおやおや。星羅っちゃんのお・ま・ん・こ。紐を咥え込んで、エロエロっじやあぁんっ！」

「だはっ、だれがはあああああああああつ——ヒモほっ、やめっ——やめてへえええええええっ！」

口では抵抗するものの、言われるとおり、短毛で愛撫をされる処女の粘膜は、V字の紐をムッチリと挟み込んで離さない。

裏地で前後に愛撫をされると、引かれる度に肛門から会陰から膣孔から尿口までが、サリりと撫で上げられて、まるで子宮まで突き上げられるかのように、強く甘電。

力を弱められて紐が後ろに収縮をすると、全ての女孔が引かれ撫でられて、強い喪失感で、子宮の飢餓感が膨張させられてしまう。

紐が前に引かれると、肉芽の包皮が根元まで剥かれて、先端から根元に向かって呑み込まれるような、抱擁愛撫。紐が後ろに引かれると、包皮は戻らずに肉芽の根元から先端までを、逆に満遍なく愛撫されてしまう。

細かい前後動で往復をされると、擦られる肉芽はまるで、何かに包まれて抽送させられているかのような、異質な性感で官能灼きにされてゆく。

「ヒモいやあああつ——ヒモでスリスリひいいっ——ヒモっ、ラメへええええつ——ひもヒ

んじゃふうううううっ！」

クリトリスから子宮へと、強い性感を何度も何度も送られ続ける。

その度に強烈な飢餓感を膨らまされて、下半身全体がヒクヒクと痺れさせられて、背筋から脳までが官能に灼かれて躓けられてゆく。

性感責めに晒される星羅に、仮面の男は更なる性嗜好を暴露する。

「小柄で無毛なく、女の子へのマンコ責めもおっつ、だっいこっふっんっ、するのでっスっ！」

「こっ、このっ——ヘンタイひいひいひいひいっ！」

言葉での反撃は、閉じられた秘処に食い込む紐をツンと引かれただけで、簡単に封じられてしまう。

粘膜の襞がサラサラ責めにされ続けると、処女の膣孔からは新たな恥蜜がトプりと溢れて、自ら拙く紐を咥えようと、粘膜全体がムチュンと収縮をした。

しかも責められているのは割れ目だけではない。

生地越しで男の掌に包まれた微乳が、左右交互に揉み上げられてつまみ上げられて、乳首を転がされて官能責めに晒され続けているのだ。

肉芽を撫でられると同時に乳首を摘まれ、膣孔を刺激されると同時に乳房全体を優しく包み揉み。

「はああうっ——くはああああんっ——くふっ、このふううっ！」

乳房と粘膜の愛撫が重ねられると、全身の性神経が繋がれてゆく感覚が解らされた。

微乳への愛撫で子宮が灼かれ、割れ目への責めで心臓が高鳴って、思考が乱れる。

理性が肉感に追い詰められて、意識が官能に踏みにじられてゆく。

自尊心の柱は、恥辱を歓喜する自らの女体本能によって、再び根元から押し倒されてしまうのが、止められなかった。

「くはうっ——やめへええっ——っ！」

紐の愛撫を止めたくて、自由になった手を自らの腰に伸ばす。しかし一方の掌で乳房を揉み上げられていて、同時に上半身そのものを押さえつけられてもいた。

背筋が伸ばされてしまうと、掌は股間に届かず、秘処を護る事なんて出来ない。

星羅は、乳房を責める掌と紐を操る掌に、性感で震える自らの掌を添える程度の抵抗しか、出来なかった。

「おっひょおー、星羅っちゃーん。愛撫のお・て・っ・だ・い、してくれるのぉーん」
「だはっ——だれがはあああああ——こ、のおおおおおうああああああんっ！」

少女の抵抗を笑う男の掌が、更に優しく強く、性感帯を愛撫してくる。

ボーイッシュな星羅の眉が八の形で弱々しく下がり、瞼は女の官能で今にもト口けそう
だ。

ブラウスの下へと、男の掌に潜り込まれると、更にV字紐の下にまで侵入される。ザラザラで硬い男の掌で、星羅のスベスベ乳房が、揉み上げられた。

「やつ、やめへっ——おっぱいいひやああああああああああつ！」

敏感にされた乳肌を直接の愛撫に晒された途端、乳房から上半身の神経全体が、一瞬で鋭い性甘電に貫かれ、包まれてしまう。

心臓が強くドクンつと跳ねて、目の前が一瞬強くフラッシュ。手足の先までがビクつと小さな痙攣をして、子宮がゴオつと強い飢餓感で灼き上げられた。

強すぎる性感で意識が混乱させられて、飢餓感で肉体は小さな痙攣を繰り返す。吐息が乱れて湿って、息が詰まって苦しいのに、女体は更なる性感を求めて脱力してゆく。

「あはっ——おなかっ——かららがはっ——へんんんっ！」

乳房を直接愛撫されただけで、星羅の肉体が急速に、絶頂へと近づけられてゆく。

局所愛撫を楽しむコンドルマスクの男が、マスクの嘴部分くちばしで、少女の頬をスリスリと愛撫で責めてくる。

「こんなう愛撫でもおおつ、気持ち良くてつ、たりまらないよねええ」

「だれがっ——っひやああああああつ！」

マスクの少し固めな嘴で頬を撫でられたら、愛顔から脳までが、ピリリつと優しい甘電で撫でられた。

二十太に施された性感の経孔操作は、いまや乳房を超えて作用しきっていたのだ。
ハッキリと追い詰められてゆく妹に、愛羅はただ声を上げる事しかできない。

「せつ、星羅あぁっ！」

「お、お姉えっ——ちゃんっ！」

それでも、姉の言葉が意識に届いた星羅。

愛羅の声に励まされた妹は、震える身体に渾身の力を込める。右手の指を伸ばして、ヘラヘラ笑うマスクの口内、奥深くの咽頭部分をガッと突いた。

「星羅っちゃっ——ゴフッ、オゴオオオッ！」

完全に油断しきっていたザ・コンドルは、突然で予想外の反撃に咳き込んで転倒。
拘束が解かれた星羅は必死に転げて脱出をして、震える身体を立ち上がらせた。

「はぁぁ……はぁぁぁっ——ま、負けないよっ……っ！」

思わぬ逆転に、会場中の男たちが「うおおおっ！」と歓声を上げる。

膝を突いて咳き込むコンドルに、今が攻撃の最大チャンス。

片手も突いて、背中側が丸出し。今の星羅に力が無くても、体重を乗せた踵落としを延髄に叩き込めば、一発KOが狙える。

星羅は深い吐息を数瞬で吐くと、打撃を決めようと疾走。
しかし。

「イヤアアっ——っあはあああああああっ！」

駆けだして片足を大きく上げた瞬間、V字紐に噛まれた乳首と肉芽が、裏側の短毛でサラッと擦られてしまった。

片足を頭の上にまで蹴り上げたから、スカートが捲れて縦開脚の股間が露出。腿の間でムッチリと膨らんだ割れ目が、V字の紐を柔らかく深く、挟み込んで食い込ませている。そんな一瞬さえもが、カメラによって大寫しにされていた。

胸の媚突とクリトリスから生まれた強すぎる性感甘電に、一瞬で少女の全身が、頭の天辺から手足の先まで貫かれる。

「あああっ——こ、んなはあああああっ！」

膝の力がカクンと抜けて、星羅は男の手前で、四つん這いの恰好に崩れてしまった。

突き出された紐バックの丸いヒップが、上部分だけマイクロミニを纏った官能的な姿で、モニターにアップ。

自分の身体が、こんなにも思い通りにならないなんて、初めてだ。

「はああっ——はあああっ——く、くそふううっ！」

戦闘よりも性官能で息が乱れてしまっている自分が、恥ずかしくて情けなくて悔しい。四つん這いで下向きになった微乳が、僅かだけ質量を増して上下する。

V字の紐に責められた星羅が腰砕けにされている間に、マスクの男は口内へのダメージ

から立ち直ってしまつた。

「うっほっほ。あゝんな反撃い、してくるとかゝつ、さつすがオイラの妹つ、星羅っちやゝんはつ、僕の嫁ゝつ！」

「はあっ!？」

また奇妙な性癖を口にする、マスク男だ。

オイラの妹とか僕の嫁とか言われて、少女の背中がゾクリと怖ける。この場合の発言としては、最悪の性癖だろう。

「さあて、このお兄ちゃんがゝつ、乱暴な妹にゝつ、おっしおきだよよゝんつと！」

「だつ、誰がボクのお兄ちゃんつ——は、離せへええつ！」

ヘンタイ的な意味での恐怖の宣言をされると、素早く近づく筋肉男の掌で、星羅の両手首が掴まれる。

背後で纏められて再び片手で押さえられると、マスク男の立て膝にお腹を乗せられた俯せに固定。

両掌を背中に纏められて、片膝立ちの上でお尻を突き出した恰好にされた。

この体勢は——。

「おしりっペンペンっ、タ〜イツムっ！」

想像した通り、人前での恥ずかしい責めで、また心を折ってくるつもりだ。

星羅は必死に足を振って、抵抗を試みる。

「やつ、やめへっ——あはあああつ！」

ツルツルのヒップが優しく撫でられ、お尻から背筋が切ない性感で灼かれた直後、男の大きな掌で叩かれた。

——ッパアアアアアンツ！

「つい痛あああいいいいいっ！」

お尻叩きなんて、生まれて初めてされた。ジンッと痺れるような重い痛みが、一瞬でお尻全体に広げられる。

同時に、人前でお尻を叩かれる事がこんなに恥ずかしいなんて、思ってもみなかった。

お尻という恥所を無防備にされた恥ずかしさだけでなく、そこを突き出した降伏の姿勢を取らされて、更に異性の掌で叩かれるという、完全に敗北した女の姿勢と行いだ。

しかも尻叩きされている少女は、最強の格闘術、聖輝琉拳継承者姉妹の、妹である。

会場中の男たちが、思わぬ恥辱ショーに、より邪な興奮を高めてゆく。

受けの良さに氣をよくしたのか、コンドルの男は更にヒートアップ。

「みんなも、大好きい、みたいだねええっ！ そらっそらっ！」

——ッパアアアンツ、ッパアアアンツ、ッパアアアンツ、ッパアアアンツ！

「やめっ——あああつ——っおしりいひいいいっ——たたくなっ——あああああつ！」

会場中に木霊する、格闘少女へのスパニング音。ツルツルの肌が弾ける良い音を奏でると同時に、男の掌形が紅葉の形で残されてゆく。

「やめっ——いたいっ——っあはああああんくっ！」

数回も叩かれると、恥ずかしくて惨めで心が痛いのに、肉体の痛みだけが痺れの中へと消えてゆく。

次第に、痛みを超えた深い性感が、ヒップから下腹部全体へと、広げられ始めた。

「やっ、やめへええええええ——っんああああつ！」

——ッパアアアンツ、ッパアアアンツ！

叩かれる度に、痺れた丸尻から子宮へと、素早い振動が焦れた刺激となって伝わる。ジンジンする振動に、胎内の飢餓感が、より膨張させられてしまう。

恥ずかしい責めをされているという現実に、理性も意志も、性感の中へと押し潰されてゆく。

ヒップを叩かれる度に清楚な子宮が飢餓感で灼かれて、手足が震えて力が抜けて、息が乱れて心臓が高鳴っていった。

処女の割れ目と肛門は、男の尻ビンタに呼応して、叩かれる度にキュウ…と収縮。

細い紐で隠された後孔の中心が締まる度に、上気している薄いカフェオレ色のシワが集まって、窄む。



ツルツルの会陰も引き締まる双孔に釣られてヒクンと反応をして、艶を倍增。

極細い面積でギリギリ隠される割れ目は、生地を食い込んで更に閉じられて、もはや割れ目そのものを見せてしまっているに等しい。

子宮の飢餓感で、処女の蜜が割れ目から溢れて生地に染み込み、更に広がる。ピタリと閉じられた柔らかい左右の媚肉の肌表面にまで、蜜をこぼし始めていた。

お尻を叩かれる振動は上半身にも伝わって、叩くに従い下向きの微乳が、プルっプルっと小さく揺れる。

羞恥に上気する愛顔を伏せて隠したいのに、ヒップを叩かれる痛みから逃れたいのか、無意識に首を伸ばして、責められる愛顔を自ら、カメラに晒してしまっていた。

「こふっ——こんな、恥ずかしいいいいっ——のにひっ、いいいいっ！」

こんな羞恥に屈服してゆく自分の身体が、恐ろしい。星羅のお尻はもう、男がくれる羞恥のスパンキングに抵抗するどころか、自らそれを望んでしまっている。

どうせ離して貰えないなら、このままもう一度、もう一回——。

叩かれる度に肉体が飢餓感で追い詰められ、また一打下さいと、無意識に哀願をする。

そんな肉体に、根元からヘシ折られてしまった自尊心の柱が、更にメリメリと碎かれていくのが、止められなかった。

「これで、ラスっっ！」

はやや黒みがかった程度だけど、硬さと熱は二十太たち以上だった。

父の勃起を見せ付けられて、僅かな嫌悪感を覚える。

「いや……ああ……んくん」

しかし女体は、胎内での重さと存在感を、思い出させられてしまう。また心臓が高鳴って、会陰の紋章が光り輝き、子宮が強い飢餓感を訴えてきた。

「才前タチノヨウナ淫売娘ナド、モウ継承者ナドデハナイイッ！ 破門ダアッ！ 才前
タチナド、死ヌマデ男ノ慰ミ者ニデモナッテイルガイイイイッ！」

そう叫んだ父の手で、姉妹の髪が掴まれた。

「お、おとうさまっ——んんんっ！」

愛羅の唇に、父の勃起が奥深くまで詰め込まれる。喉の奥で、父の熱と重さを感じさせられると、思考は一瞬でパニックに陥れられて、肉体は牡肉の官能で灼かれてしまう。

「パパっ……んちゅううっ！」

姉から抜かれた父の勃起に、妹の唇も犯される。

舌の上に身を乗せる男性器の存在感に、強姦絶頂で灼かれたばかりの姉妹の意識は、あつという間に、自身の飢餓感だけに吞まれてしまった。

『さあ皆様。なんと聖輝琉拳の先代継承者であり、姉妹の父、聖進氏による、父娘陵辱シヨ一の開幕です！』

陽気な二十郎の罵りも、もう姉妹の意識には届いていない。むしろ辱められる言葉にまで、女体は被虐的な官能で灼かれてしまう。

姉妹交互に脣の奥まで犯されながら、敗北感と絶望感がより深い底なし沼のような、絶対的な性感へと、繋がれてしまう。

「グウウウ……コノ恥知ラズナ敗北者ドモメガアアッ！」

（わたくしは……負けた……妹も、血統も……護る事が、出来ず……）

いつしか姉妹は、敗北の罪から逃れるように、髪を掴む陵辱者の手に従って、自ら脣愛撫を捧げ始めていた。

——ちゅ、ぷちゅぺろちゅ、んくんくろろちゅろ、ぺろろちゅぷちゅ。

「んぐんんっ……ごめん、なさひい……おとふ、さまは……んく、んちゅ……」

「パパあ……んちゅ、ぷちゅ……ぼく、ダメなこお……ぺろ、ちゅぷ……」

肉体の熱と子宮の飢餓感に支配されながら、姉妹は首輪のまま四つん這いになって、教えられるままに、父の勃起に舌を這わせて脣で吸い舐め奉仕。

愛羅が右側から本体を舐めると、星羅が左から睾丸を舌愛撫。妹が裏筋に脣吸いを捧げると、姉が先端の鈴割れを舌刺激する。

はだけたブラウスから、四つん這いで質量を増した巨乳と微乳が溢れ出て、タップタップと揺れながら媚突を覗かせる。

細い背中が優しくしなつて、マイクロミニのスカートを持ち上げる丸いヒップを突き出して、女体の興奮を伝えていた。

照明とカメラに照らされる後孔と割れ目は、中出しされた精液と新たな蜜にまみれて濡れて、鼓動に合わせてチュクんと収縮。

肛門と膣孔の間のツルツル会陰では、鮮やかな血の色の「覇」が輝いて、子宮の飢餓感が更に膨張をさせられていた。

娘の舌愛撫を受けた父が、二人の腕を取って抱き合わせて、愛羅を下にして転がす。乳首を重ねて抱き合わされた姉妹の美脚が、絡ませあつたまま限界まで開脚させられる。

上下に重なる恰好でカメラに映された二人の股間は、共に蜜を溢れさせて、濃い桃色に上気していた。

「あう……おとう、さまああ……っ！」

「コノ、淫売娘ドモガツ！」

それぞれ二人の異性に犯された姉妹の脳は、この体勢だけで何をされるのか、無条件に受け入れてしまう。

「パ。パ。パ。あああああああっ！」

——つつツチュっ！

妹の膣孔に勃起が詰められると、肉圧で性神経を灼かれるショートカットガールの肢体

が、ヒクンんつと大きく背筋を反らす。

「ぼ、ぼくふううっ——パパにつ——。パパにおかされてるううううっ！」

父親に犯されたという衝撃は余りにも強すぎて、絶頂と飢餓感に灼かれる星羅の脳神経は、ただ深くて破滅的な、絶望の性快感で塗り替えられてゆく。

「せいらはああつ——あああつ、ムネへええつ！」

乳首がキュつと擦れた愛羅も、同じく小さいけど鋭い性官能で、背筋から脳までが更に強く灼かれてゆく。

「情ケナキ我が娘ドモエエエッ！」

姉妹の女体が性感に灼かれると、父は交互に娘への肉陵辱を始めた。

星羅に突き込んだ次の瞬間には、愛羅を強姦。ユックリなんて一瞬もない、ただ姉妹の絶頂と娘の中での射精だけを目的とした、肉の悦楽強姦。

——ツづちゆズぶヅちユづプづちゅッ、ヅぶヅちユぬリュぶヅちユプリュぶヅぶヅぶりゅプづプづプづプッ！

「はああああああつ——。パパあつ——。パパの太くてへっ——。おくがズンズンんつ——。パパのつ、ラメへえええええつ！」

星羅の子宮壁が連打をされると、それだけで全身の力がクタリと抜ける。姉の背中を弱々しく抱き締めながら、姦通の度に背中が反れて、官能に上気する愛顔をカメラに晒す。

臉がトロけて脣が笑みを浮かべ、父との交わりという穢れた行為さえ、純粹な性悦として受け入れてゆく。

妹の下で、父に犯される愛羅も。

「おおとうつ——おとうさまあああああつ——わたくしのつ、なかあああつ——シキユフが突かれてへええつ——おとふさまのつ、あついのでえええええええええつ！」

子宮孔を連続突破されて胎内突きに晒されると、動物以下な近親相姦の現実までもが、絶望的で破滅的な、甘美な性感となつて女体に馴染けられてしまう。

背中がしなつて妹の身体を抱き締めて、白い喉が晒されて汗を浮かせる。

カメラに映される上気した官能美顔は、ただ無垢な少女の笑顔に、女の性感を最上の姿で混在させて表していた。

勃起突きされる二人の子宮が飢餓感の熱を膨張させて、鼓動に乗って手足の先にまで伝搬してゆく。

父のペニスで交互に突き上げられながら、姉妹の女体は抱き合つて混じり、乳首を擦り合わせながら、共に絶頂へと上げられてゆく。

「おとうさまあああああつ——わたくしの、なかをつめてへええええええつ——せいらあああああつ——せいらああつ——んちゅううつ！」

妹の脣を奪うと、肉体の熱が更に高まり、全身が浮遊感に包まれてゆく。

父の精臭が漂う姉妹同士の脣が触れ合う。これが聖姉妹の、ファーストキスだった。

「ちゅぷっ、んちゅぷっ——おねえちゃんんっ——パパもおおっ——せつくすううっ——すてきすぎるうううううううっ！」

近親相姦に喜ぶ格闘姉妹の姿までもが、カメラを通じて、会場やモニター、更に世界中の閲覧者にまで、視姦されて楽しまれていた。

姉妹それぞれの視界にカメラが捉えられると、それだけで被虐の性感が高められてしまい、女体は新たな絶頂へと近づいてゆく。

「わたくしっ、みられてへええっ——きんしんそうかんっ——わたくしたちひっ、きんしんそうかんっ——だいすきしまいれすふううううううっ！」

「ぼくだいすきひいひいっ——パパにおかされてへっ——おねえちゃんにキスされてへえっ——きもちよすぎてへええええええええっ！」

動物以下の宣言を無意識に告げてしまうと、女体は更に飢餓感が膨張して、破滅的な被虐の絶頂感へと、駆け上がってしまう。

全身の熱で肌の感覚が消失してゆく。愛羅の粒脰と星羅の襜褕壁が、新たな蜜を溢れさせながら、父の勃起を抱き締めてご奉仕。

鼓動が限界まで高まって、全ての音が遠退いてしまう。

抱き合う肌と父に犯される子宮だけが存在の全てにされると、もう姉妹は近親相姦の絶

頂が、すぐ目の前だった。

「またイキますふううつ——わたくひいつ——っんあああああつ——おとうさまにつ、おかされてへえええええええええつ！」

カメラに向かつて、自ら近親相姦絶頂をしますと宣言をする、愛羅。

「ぼくもイクよおおおおお——パパにどうかんされてへつ——パパすてきひいひいいいつ——きんしんそうかんてイクうううううううつ！」

もう子宮の飢餓感で、何を言っているのかさえ認識できない姉妹だ。

絶頂だけが欲しくて欲しくて、膣壁は父の勃起を拙くもキツく抱き締めて、オネダリを捧げる。

そんな娘たちに、父が鉄槌を下した。

「コノ淫売ドモガアアアッ！」

素早く全力の抽送で、後継者姉妹の子宮壁が、ほぼ同時に肉詰め強打をされた。

——ツツづちゅぷツツ！

「っ——っ!!」

交互に近親肉姦をされた星羅と愛羅が、同時に絶頂へと突き上げられてしまう。

「っパっ——パパがずんってへえええつ——パパのでっ、ぼくイクふつ——パパにおかされてすてきにイクよおおおおおおおおお——」



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

キルタイムコミュニケーション小説シリーズ あなたはどのタイプ？



ドキドキラブな
ハーレム系ライトノベル！

**二次元
ドリーム文庫**

サイズ:文庫

戦うヒロインが屈服されちゃう！
かなり過激なライトノベル！

**二次元
ドリームノベルズ**

サイズ:新書

※二次元ドリームノベルズは18歳未満の方は購入できません

日常に密着したエロス、リアルな
舞台設定で送る官能小説レーベル！

リアルドリーム文庫

サイズ:文庫

フリーダム度120%!?
ジャンルにとらわれないドキドキ★ラノベ！

あとみっく文庫

サイズ:文庫

詳しくはKTCの公式サイトにて！

キルタイム

検索



電子書籍版も各ダウンロードサイトにて続々配信中!!



業界唯一! エロラノベ&エロコミック満載!!

電子書籍も配信中!



魔法、催眠、性転換…不思議Hコミック誌！



ヒーレン
ピンチDX

詳しくはKTCのオフィシャルサイトにて!

キルタイム

檢索

書店、ダウンロードサイトなどで好評発売中！

※いずれも18歳未満の方は購入できません。